

「みんなで育てる河川公園(仮称)」モデル地区の選定について

1. 淀川河川公園の管理運営方針

安全、快適に利用できるようにする

河川に立地する公園として、利用者には一定の自己責任が伴うという原則のもと、健全かつ秩序ある利用を促し、安全かつ快適に利用できるようにする。

淀川にふれ、学ぶための機会を増やす

古くから人との関わりの中で形成されてきた淀川を知ってもらい、理解を深めてもらえるよう、広報活動及び体験プログラムの実施等を通じて、淀川にふれ、学ぶための機会を増やすとともに、淀川河川公園における整備及び管理運営の方針について周知する。

多様な主体の参加と連携を図る

地域に親しまれ、淀川と人とのつながりをより深めるとともに、淀川河川公園の利用に関する様々な意見を反映するため、整備及び管理運営において、利用者や利用団体、地域住民、学識経験者、地元自治体等、淀川河川公園に関わる多様な主体の参加と連携を図る。

2. モデル地区設定の目的

より多くの人々に淀川河川公園を安全・快適に利用していただき、淀川にふれ・学ぶための機会となる体験プログラムの実施等の内容を充実させていくために、公園の整備や管理運営の過程において、利用者・利用団体に参画していただくことが重要です。

淀川河川公園では、他の国営公園に見られるような公園の利用者に様々なサービスを提供する市民団体や市民ボランティアの組織化の例がほとんど見られないのが現状です。

そこで、淀川河川公園を利用するさまざまな主体が公園の管理運営に参画・支援していただけるような、利用者・利用団体、地域住民、教育機関、企業、地元自治体、公園管理者等による連携のしくみづくりを試行するモデル地区を設定します。

3. モデル地区の位置づけ

モデル地区は、これからの淀川河川公園の管理運営に主体的に参画していただく利用者・利用団体と、それを支援する市民、市民団体、企業及び行政機関等との望ましい役割分担のあり方を試行しながら、淀川サポート制度の活用等により緩やかな組織化をめざす地区と位置づけ、その過程で得られた知見を他地区の公園管理運営に活かします。

4. モデル地区の候補

- ・淀川河川公園の開園済み地区の中で、地域住民や市民団体による利用が相対的に高い頻度で行われている地区をモデル地区の候補とします。
- ・中流左岸域においては、点野砂州及び点野ワンドにおいて地元の市民団体等による清掃、植生管理、環境学習が継続的に実施されています。

【事務局提案】

中流左岸域の「みんなで育てる河川公園(仮称)」モデル地区を、点野野草地区とする。